

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100501		
法人名	宮崎医療生活協同組合		
事業所名	グループホームおおつかの家		
所在地	宮崎市大塚町西ノ後3435-1		
自己評価作成日	平成23年10月24日	評価結果市町村受理日	平成24年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100501&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成23年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

馴染みのある生活ができるように、家庭的な雰囲気大切に支援している。
開かれた施設を目指し、誰もが立ち寄れるような施設にしたいと考えている。ご近所との関係を重要視し、自治会加入や地域活動への参加など、地域に溶け込める活動を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年3月に開設され、管理者、職員が一丸となって作り上げているホームである。管理者の「ケアをするのではなく利用者本位でのケアを大切にする」という思いの下、職員も利用者の思いや希望をくみ取るよう支援している。看取りや災害対策においても、職員同士での話し合いや法人内との連携の下、協力体制が充実している。地域との関係づくりにも積極的に取り組み、自治会へも加入し、今後も協力体制への働きかけが期待される。近隣住民からは事業所の開設により、安心して生活できるとの声も聞かれるなど、地域からも頼られているホームである。利用者もゆったりとした家庭的な雰囲気の中、穏やかに居心地良く過ごす様子がみられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に管理者・職員双方で話し合って作り上げた。本人本位を第一に考え、施設生活をよりよいものにできる手助けを理念としている。	昨年のホーム開設検討時に、管理者、職員全てで話し合い、覚えやすく、実践できる理念を作成している。全職員が実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板で地域の状況を把握している。地域の夏祭りへの参加、清掃活動への参加を行っている。ご近所の方々への挨拶等を行っている。	自治会へ加入し、地域の清掃作業や祭りへ参加している。ホームが開設したことにより、地域の方も安心して生活できるとの声も聞いている。日常的なあいさつも交わし、交流している。	さまざまな行事に参加し、地域の協力も得られているが、今後、利用者も含めた地域との交流が図れるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を併設する小規模多機能ホームおおつかの家と今後開催する予定。その際にはご近所の方にご案内する予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月の活動内容と取り組み紹介、苦情や事故報告、経営状況を報告している。地域活動の予定や行事、意見を伺っている。	運営推進会議では、ホームの活動報告などを行い、地域の行事予定などの情報も得ている。会議にて、ホームを知ってもらったり、協力を得るためにも民生委員・児童委員協議会への参加の提案があり、それらをサービス向上に生かしている。更に会議を活発化したいと検討している。	運営推進会議での活発な意見交換や地域協議会等を利用した、地域との交流が図られることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用に際しての疑問点は、その都度介護保険課や社会福祉課に確認している。施設外の活動として、認知症チームケア推進事業へ参加・協力している。	認知症チームケア推進事業や看取りの経験等で、適宜連絡や確認を取っている。日常的なケアにおいても介護保険課と連絡を取り、協力関係を築く取組が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての学習会を行い、開設より身体拘束はしていない。今後も学習会を定期的に行い、更なる周知に努めていきたい。	法人内での研修にて、職員に身体拘束をしないケアを周知している。管理者は、言葉の拘束にも気をつけ、継続した職員への周知徹底を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止について勉強会を予定しているが、現在ははまだできていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会に参加し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に細かい説明を行う事はもちろん、不安な点については、遠慮なく質問していただけるように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見は日頃より受け止め、その都度対応している。ご家族には、状況に合わせ電話にて対応している。又、運営推進会議には、毎回ご家族に参加していただき意見を伺っているが、利用者の参加はできていない。	利用者からは、日常的な会話から意見をくみ取り、家族からは、来訪時や運営推進会議時に意見をうかがうようにしている。管理者、職員は意見を言いやすい関係づくりに努め、意見を反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を開催し、意見や提案を出し合っている。又、ケア内容等については随時話し合いを行い、柔軟に対応できるようにしている。	管理者は、毎年職員面接を行い、意見を聞く機会を設けている。毎月の職員会議も行い、職員は管理者へ随時意見を言える機会もあり、意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを設けており、職員が目標を持ってステップアップできるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での年間を通じた学習会の実施や法人外での研修にも積極的に参加している。又、資格取得への支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時に、法人内の他事業者への見学を行い、合同による勉強会を実施している。法人外では、グループホーム連絡協議会に参加し、他事業所との交流や意見交換を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に自宅等を訪問し、ご本人の思いや願いを伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に自宅等を訪問し、ご家族の思いや願いを伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での生活リズムなどの生活環境を変化させないような支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側の関係にならないように、制服などの着用も行っていない。又、人生の大先輩として関わりを持つように、言葉遣いや行動に気をつけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1ヶ月に1回は入所状況をニュースを通じてお知らせしている。又、面会時には近況報告の実施、突発時には、電話での連絡を実施している。面会の少ないご家族には、来所していただくよう声かけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族等との外出を通じて、それまで培ってきた関係は維持してもらっている。面会においていただけるようお願いしている。入所時に、馴染の物があれば持参していただくようにしている。	利用者との日常的な会話の中から、なじみの場所等を聞き、家族にも協力を得られるように工夫をしている。なじみの友人の来訪も時折あり、関係が途切れないよう、支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関わりについては、職員はあまり干渉しないように対応はしているが、入所初期には気の合いそうな方同士と接点が持てるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで終了された方は、入院と死亡の2人の利用者の方であった。今後は状況に応じ、入所中の情報提供や退所後の様子を伺うつもりである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からの情報をアセスメントシートに記入する事にはなっているが、取得している情報を記入することが十分にできていない。	入居前に、情報収集を家族より行っている。利用者との日常的な会話においても、一人ひとりの希望や意向を把握できるように努め、アセスメントシートに記入し、本人本位になるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前にも情報収集を行っているが、サービス利用後にも、ご本人やご家族より情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課や一日の過ごし方については入所前に確認し、随時状態や現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは職員協働で行い、状況を確認。本人・家族・計画作成担当者・受け持ち介護士と話し合い、プランの確認をしている。全体では職場会議で確認している。突発時には、その状況に合わせ対応はしているが、計画の見直しはできていない。	カンファレンス、モニタリングを職員協働で行い、3か月ごとに家族にも来訪を依頼し、本人家族、担当者、計画作成担当者にて話し合いを行い、介護計画を作成している。申し送りノートの利用、毎日のカンファレンスにて、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りなどでの情報の共有はまだ不十分で、職員全体のケアに活かす事ができていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により、他事業所や法人内事業所に相談しながら対応している。馴染みの店などの利用が継続できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の希望により、図書館のカードを作成したり、利用者のADLの状況に応じて、地域内の銀行やスーパー等買い物などの外出を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族等の希望を大切に、かかりつけ医へ受診している。かかりつけ医とは状況報告を密にとり、情報交換を行っている。往診は内科・歯科をお願いしている。	本人、家族の希望にてかかりつけ医の定期的な受診が行われている。往診の協力も得られ、かかりつけ医との関係も築かれており、適切な医療を受けられる支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時の報告はもちろん、近況の報告や変化についても連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報の提供や退院時の状態確認など、情報収集に努めている。入院中の状況確認にも頻回に訪問したり、ご家族に確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じ、かかりつけ医・ご家族とカンファレンスを行い、方針を確認している。看取りを1例実施した。今後も状況に応じ受け入れる予定である。	ホームとしての重度化における指針が作成され、家族には契約時に説明が行われている。看取りの経験もあり、学習会も開催し、職員の共有もなされている。法人内のクリニックとも連携体制が図られ、チームとしての支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡先や主治医一覧などを用意し、備えている。又、勉強会に参加はしているが、直接的な応急手当や対応方法の共有はまだできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、機器点検と防災訓練を実施している。1回目は8月に終了。次回は夜間を想定し実施する予定である。グループホーム連絡協議会主催の災害対策の研修会に参加、今後、災害マップの作成をしていく予定である。	年2回の防災訓練が実施され、夜間想定訓練も予定されている。運営推進委員、地域の協力も得られ、避難場所も設定されている。法人内の連携も構築され、災害対策への協力体制が築かれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を大切に、言葉遣いや対応に注意している。	入浴においては同性介助を行い、入室に際してもノックを忘れずに行うなど、一人ひとりの自尊心を尊重した言葉掛けや対応を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の言動で把握したり、又は伺いながらケアにあたり、本人本位を実現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせその人が望まれている支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の望む対応を考慮し、できない部分の支援を行っている。必要時には、買い物に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のADLや意欲に応じ、食材切り、盛り付け、配膳・片付けなどを一緒に実施している。利用者によっては、自分の役割と認識できている方もおられる。	利用者はそれぞれの役割で準備、後片づけを行っている。食事は利用者の状態に応じた食器や形態に配慮している。職員はさりげない言葉掛けや介助を行い、利用者が楽しみながら食事ができるよう、支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や状況の把握を行い、摂取困難時には代替の検討を行い、摂取できるように工夫している。体重測定を行い、目安としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがい・義歯洗浄を実施。できるだけ自力での実施を促している。できない方のみ支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄パターンを把握するように努めている。尿意・便意の有無に関わらず、トイレ誘導を行っている。	夜間は本人、家族との話し合いの下、オムツ交換の回数を減らし、良眠できるよう対策を取っているが、日中は排せつチェック表を利用し、トイレ誘導を行い、排せつの自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認によって間隔を把握し、水分補給や野菜摂取を促して対応する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	完全個室として、入浴回数もご本人の希望を優先している。入浴時間もできる限り、ご本人の意向に添うように支援している。	利用者の自尊心を大切にし、同性介助を行い、日中はいつでも入浴できる体制が整えられている。また、完全に一人での入浴であり、ゆっくりと入浴を楽しむことができるような支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間はご本人の意向に添うように支援、不眠時はロビーで過ごしていただいている。昼夜逆転予防の為に、日中運動に参加していただいたり、生活リズムをつけられるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の状態に合わせ、場合によっては医師や薬剤師に相談している。又、内容が変更になった場合には、状態の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各々に応じた役割を持っていただくように支援しているが、それが負担にならないように注意している。楽しみ事や気分転換も各々に合わせ、ゲーム・歌唱・ドライブ等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ・施設周辺の散歩に誘ったりしている。又、行事として利用者全員の外出を企画している。	本人の意向を大切にし、買い物や市役所、銀行などへ外出している。日中も希望があれば散歩を行うなど、支援している。お弁当を利用者と作って外出したり、利用者全員と家族での外出も企画されるなど、工夫しながら支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望される方は、ご家族より一定金額を預かって管理している。外出時の支払いは、本人に実施してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、家族に確認をしてかけている。只、毎日希望される方については、代替方法を家族と話し合い実施している。手紙も希望に応じて、書かれる事を勧めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を最優先にしており、施設内はバリアフリーとしている。ロビー等に鉢植えや花壇に咲いている花を飾ったりして、季節感を感じてもらっている。	共用の空間では、食後テーブルのいすに座られ作業をされる方、ソファーにかけてテレビを見られる方と、それぞれがゆったりと過ごしている。壁には、利用者が作成した季節感の漂う作品が飾り付けられ、居心地良く過ごせる工夫が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座られる方、テーブルの椅子に座られる方と決まってきたり。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具等があれば持参していただいたり、写真など、馴染の物も持参してもらっている。	居室には、利用者、家族の希望でテレビが持ち込まれている。家族の写真や本人の好む花も飾られ、居心地良く過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室はフルネームで表示、トイレや浴室は文字と飾りで表示している。廊下には手すりを設置しており、杖と手すり使用で歩行していただいている。		